

1. 総括

今年度は、平成 25 年度に立ち上げた「環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会」を中心として、「世界一の環境学習のまち みずしま」を目指した取組みとしてパンフレットやホームページの整備、「水島いいところ百選」、岡山大学と連携した授業の実施などに重点的に取り組んだ結果、学びのできる地域としての定着に向けて一層の前進をすることのできた年となった。また、瀬戸内海国立公園が指定 80 周年を迎えることから、海の環境再生に向けた事業を重点的に取り組み、フォーラムの開催、生きものマップの作製など一定の成果を上げることができた。

財政面では、平成 25 年度に一定の改善が見られ、今年度も引き続き改善を目指して取り組み、視察研修受け入れ、講師派遣事業など当初計画を大幅に上回る事業収益を上げることができた。しかし、当初重点事業にあげていた香川県委託事業、岡山県委託事業等が取れず、環境保健事業の決定が遅れたために当初計画より減額となった。改善の努力により新たな補助の獲得などは見られたが、年間の経常収支としては大幅な赤字となってしまう。

定款にある「水島における公害経験の経験と教訓、地域再生や地域づくりの取り組みについて広く全国や世界各地と情報交換し、岡山県内において将来の世代が安全に暮らせる環境の保全創出に資する」という目的に向けて着実な前進を見た年であったが、財政面では大きな課題を残す結果となっており、来年度（平成 27 年度）の中長期計画策定に向けてこれまでの成果と課題を改めて認識する年となった。

2. 重点項目

「水島の未来ビジョン 実現へのキックオフ（環境省協働取組）」

昨年度、環境省の委託事業を受けて立ち上げた「環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会」を基に、①協働の基盤を固める、②地域との対話を進める、③若者の学ぶまち水島の確立の 3 本を柱に取り組みを進めた。

水島版 ESD プログラムの検討、「水島いいところ百選」などの取組を進めるとともに、協議会の活動を紹介したホームページ、パンフレットなどを作成し、活動をより広めていくための基盤を整備することができた。

「瀬戸内海国立公園 80 周年」

今年度は、瀬戸内海が我が国で最初に国立公園に指定されて 80 周年を迎えるため、これに関連したイベントを実施した。具体的には、将来を担う世代に海の環境について正しく伝えていくための環境学習の大切さについて考えるフォーラムの開催、生きものマップの作成、生きもの観察イベントを開催した。

また、従来行ってきた海底ごみ調査で得られた知見や、経験を活かした調査研究事業を行政に企画提案し、海底ごみ対策を具体的に進めていくことを目指したが、委託事業の獲得には至らなかった。

3. 個別項目

公益目的事業1（公1）

水島の公害経験を活かし、国内外で公害のない、よりよい地域を創造することをめざし、調査・研究、提言活動を実施した。

(1) 調査研究

瀬戸内海 80 周年事業（104）

評価	<p>当初事業計画では、瀬戸内海国立公園指定 80 周年として、瀬戸内地域における課題などを取りまとめる事業を瀬戸環連に 100 万円規模の委託事業として提案する予定であったが、調整がうまくいかず実現できなかった。</p> <p>8 月に岡山県備中県民局に「瀬戸内海国立公園指定 80 周年記念 子どものための海の学びのプログラムづくり ～高梁川河口周辺海域をフィールドとして～」事業提案を行い、助成事業として実施することとなった。フォーラムの開催や生きもの観察会などを通じて、将来世代のための環境学習の大切さについて再確認することができたが、今後の具体的なアクションプランの作成などが課題として残った。</p>
事業内容	<p>①高梁川河口干潟の生きもの観察会の開催（11/2）</p> <p>②将来世代を担う子どもたちへの海域を活用した環境学習について考える、フォーラム「30 年後の海を考えよう！」の開催(1/10)</p> <p>③「高梁川流域周辺海域生きものマップ」の作成・備中県民局管内の小・中学校への配布を行った。</p>

環境保健（105）

評価	<p>当初事業計画では、平成 25 年度に引き続き独法) 環境再生保全機構の請負事業として、地域連携での COPD 普及啓発事業に取り組む予定であったが、保全機構の事業確定が年度末にずれ込み、あおぞら財団からの再委託として平成 26-28 年度の 3 年間の事業として取り組むこととなった。</p> <p>倉敷では、COPD に関して地域連携によるパンフレットを作成するなど、全国の他の公害地域でもできていない取り組みがこの分野では進んでおり、今後重点的に取り組むことでみずしま財団の活動の柱となることが期待できる。</p>
事業内容	<p>水島地域での分科会を 1 回開催し、報告書を提出するとともに、新たに病院協会の参加も増えるなど今後に向けた広がりを得ることができた。検討会では、地域における COPD 対策の進め方について議論をした。</p> <ul style="list-style-type: none">・分科会（倉敷 3/24）・検討会（大阪 3/31）

岡山県海ごみ（106）

評価	<p>当初事業計画では、平成 25 年度に実施した「海底ごみ適正処理体制構築事業のフォローアップ調査」に基づき、海底ごみ対策のための調査事業を岡山県水産課に提案することとしていたが、岡山県の事業が海底ごみ問題の啓発用映像素材の作成となっており、その入札資格を有しない当財団では、企画提案に参加することができず、委託をとることができなかった。</p> <p>海底ごみについては、岡山県、香川県の事業が取れないといった状況が続いているが、環境省でも具体的な対策を進めており、今後も継続して取り組むべ</p>
----	---

	き分野である。財団のこれまでのノウハウを活かして行政の事業を受託しつつ、企業も巻き込んだ持続的な海ごみ対策のしくみをつくることで、財団の活動の柱としていきたい。
事業内容	岡山県海ごみ対策県市町村連絡調整会議（6/3）で海底ごみ報告書について説明を行った。 日本環境学会で、海底ゴミ調査について報告（6/21） 岡山県が作成する海底ごみ問題啓発番組に海底ごみの専門家として出演した（2/13 取材）。

香川県海ごみ（107）

評価	当初事業計画では、香川県の海底ごみ発生抑制のための調査事業の受託を見込み、1600万円の収入を見込んでいたが、提出した企画について香川県による審査の結果、組織体制の問題などにより不採択となった。 その後、香川県事業に変わる事業の受託を目指して、国土交通省福山河川事務所や福山市役所等に営業を行ったり、「平成26年度 環境省漂流・海底ごみ実態調査」業務の受託を目指したりしたが、いずれも不調に終わり、事業獲得には至らなかった。
事業内容	香川県に応募意思表明書を持参（7/15）、企画提案書の提出（7/22）。国土交通省福山河川国道事務所、福山市役所への営業（9/17）。環境省水・大気局海洋環境課訪問（10/7）。

温暖化防止（108）

評価	日本共産党岡山県議団の政務調査費事業として毎年取り組んでいる「岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」の評価・分析事業に今年度も取り組み、県内における主要企業の温室効果ガス排出量の動向を把握することができた。同時に本制度のより有効な活用に向けての課題などを分析し取りまとめることができた。
事業内容	平成25年度分の各事業所の実績報告に基づき、歌川学氏（産業技術総合研究所）、上園昌武氏（島根大学）に委託し、分析と本制度のより効果的な活用についての提案などを取りまとめた報告書を作成した。

（2） 提言活動

提言活動（111）

評価	調査研究活動等で得られた知見、また研究者やNPO等との連携を活かし提言活動を行い、岡山県、倉敷市などの政策に対して市民の立場からの意見を述べることができた。
事業内容	岡山県河川整備検討委員会（7/18、10/17） 岡山県環境審議会審議員（9/2） 倉敷市生物多様性地域戦略推進委員会（10/16） 新・岡山県環境マネジメントシステム外部評価委員会（2/24） かんきょうひろば（6/20、10/3、3/20）

公2（公益目的事業2）

大気汚染公害・環境問題・環境再生・まちづくりに関わる普及啓発・支援事業

水島の公害経験を活かし、国内外で公害のない、よりよい地域を創造することをめざし、公1「調査・研究・提言活動」で得られた知見を活用し、市民や企業、行政、NPO等に学習の場を提供、活動の支援、情報の収集提供をおこなう。

(1) 講師派遣 (201)

評価	高校・大学の授業や、公民館の講座等へ財団研究員を講師として派遣することで、水島の教訓や海の環境問題の現状などを伝え、市民の環境問題に対する理解を深め、意識の啓発を進めることができた。 また、当初事業計画に対して、岡山大学実践型社会連携教育授業やグローバル・パートナーズ授業で財団研究員が非常勤講師となり、授業の企画から実際の授業運営を行ったため、講師派遣回数が増加した。
事業内容	岡山大学実践型社会連携授業 前期の金曜3限の授業及び、2回のフィールドワークを行った。 ・授業（4/11、18、25、5/16、23、6/6、13、7/25、8/1） ・フィールドワーク（漁業体験 5/10、工場見学 7/30） グローバル・パートナーズ ・フィールドワーク「高度経済成長の光と影 生産から廃棄、公害問題の現場に学ぶ」（5/24-25） ・授業（5/30） その他、以下のテーマを中心に19回の講師派遣を行った。 *暮らしと環境・社会とのつながり 「食と環境と交通を考える ～フードマイレージ買い物ゲームを通じて～」 ・連島北小学校（主催：STOP 温暖化くらしき 5/28、10/1） ・柳井原小学校（主催：STOP 温暖化くらしき 6/3、9/30） ・あつまれ未来のエコ博士（主催：岡山大学 8/5） ・アスエコ講座（11/29） *水島の地域開発と公害の歴史 ・倉敷芸術科学大学 まちづくり授業(7/10) ・備中倉敷学（12/11） *環境再生・まちづくり 「八間川」 ・八間川をもっと知ろう！：水島小学校（7/10） 「環境・まちづくりで働くということ」 ・倉敷南高等学校 ラーニングカフェ（7/24） 社会人講義（2/3） 「水島の経験と環境再生・まちづくり ～過去を学び、未来をつくる～」 ・水島小学校（2/18） 「第2回 未来を拓く自治と協働のまちづくりを目指す研究集会」（尼崎市） （2/22） *海関連 ・アマモ場観察会（牛窓）：フジイ印刷（7/12） ・水島エコクルーズ：倉敷市環境学習センター（7/23）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海底ごみについて（中学生への講演）：海守さぬき会（8/5、8/28） ・ 瀬戸内海の秘密（漂着物アクセサリー作り）：倉敷市環境学習センター（8/22） ・ 瀬戸内海を知っていますか？（漂着物アクセサリー作り）：倉敷市クルクルセンター（8/27） ・ 瀬戸内海の秘密（漂着物アクセサリー作り）：環境学習センターアスエコ（9/27） ・ 瀬戸内海の環境を考える高校生フォーラム：文部科学省スーパーサイエンスハイスクール重点事業（10/4） ・ 高梁川河口干潟について：吉備の国クラスター協議会（1/15）
--	---

(2) 研修・視察 (323)

評価	<p>毎年恒例となっている倉敷医療生活協同組合新入職員研修、川崎医科大学見学実習、水島エコツアー（年2回）に加えて、岡山大学実践型社会連携教育授業でのフィールドワーク、島根大学の受け入れ等を行った。今年度は、若武者育成塾（主催：アサヒビール、日本環境教育フォーラム）や岡山県立岡山城東高校といった高校生を対象とした新たな研修の受け入れも行い、水島の教訓を若い世代の人に伝えることができた。</p> <p>視察研修の分野は、着実に伸びてきており、財団の活動の重要な柱になりつつある。今年度できなかった全国の大学へのPRや、公害患者さんの高齢化やスタッフの問題など受け入れ体制の課題についても、レクチャーのできる人材育成などに取り組むことによって、より効率的な運営を行うことで、収入面でも財団の柱となることを目指したい。</p>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 倉敷医療生協新入職員研修（4/2） ・ 川崎医科大学医学生受け入れ（4/16、5/14、6/4、9/24、10/8） ・ 倉敷南高等学校 町衆プロジェクト（7/28） ・ 若武者育成塾（8/6） ・ 岡山大学キャンパスアジアサマースクール（8/7） ・ 滋賀大学研修受け入れ（8/31） ・ 大学生のための社会見学&エコツアー「水島コンビナートと、海の環境再生を学ぶ旅」（9/5） ※環境省協働取組事業と連動。 ・ 島根大学フィールドワーク研修受け入れ（9/23～24） ・ 岡山大学グローバル・パートナーズ フィールドワーク 瀬戸内海の多面的価値を学び、産業と環境の共生を考える（12/10）12名参加 ・ 岡山県立城東高校研修受け入れ（12/26）24名参加 ・ 大学生のための社会見学&エコツアー「水島コンビナートと、地域再生を学ぶ旅」（2/27）

(3) 学習講座啓発 (214)

評価	<p>倉敷市環境学習センターと連携し、学びと交流の場を活用しながら温暖化防止シンポジウム、八間川調査、海辺のエコしらべなどの講座を開催した。また、各種イベント等にも出展し、市民へ広く普及啓発をおこなうことができた。</p> <p>当初事業計画にあった水島版 ESD プログラムの世界会議での発表や学習センターと連携した人材育成講座など、計画に沿って実施することができた。</p>
----	---

事業内容	<p>講座開催：調査研究を通して得られた知見を市民へ伝える機会として講座を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温暖化防止シンポジウム「地域からの地球温暖化防止を考える」(5/11) ・自転車を活用したまちづくり ～体験講座～：倉敷総社温暖化対策協議会と連携して実施し、1回のイベント実施と、パネル展示を行った。 <ul style="list-style-type: none"> くらしき百景を自転車で訪ねるプロジェクト（藤戸編）(6/28) くらしき環境フェスティバルでパネル展示(6/7) ・八間川調査：倉敷市環境学習センター連携講座として2回開催した。 <ul style="list-style-type: none"> 6/29、7/27 ・インタープリター養成講座 <ul style="list-style-type: none"> ハンズオン展示について学ぶことを通じて、思いを伝える技術・考え方を身につけることを目的に講座を開催した。講演会とワークショップの2回連続講座として開催した。 <ul style="list-style-type: none"> 7/27 講演会「ハンズオン展示がもたらすもの」 <ul style="list-style-type: none"> 講師：染川香澄氏（ハンズオンプランニング代表） 10/25-26 ワークショップ「実際に参加型展示をつくってみよう」 <ul style="list-style-type: none"> 講師：染川香澄氏（ハンズオンプランニング代表） 進行：西村仁志氏（広島修道大学 準教授） ・海辺のエコしらべ：倉敷市環境学習センター連携講座として開催した。 <ul style="list-style-type: none"> 8/24 <p>イベント等への出展、展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉敷市環境フェスティバル 倉敷の海・アマモ (6/7) ・展示「海底ごみと私たちの暮らし」(8/11～8/31) ・リサイクルフェア in くらしき 倉敷の海・海底ごみ (10/5) ・都市緑化フェア 温暖化防止 (10/19) ・第二回おかやま環境教育ミーティング (2015/2/11)
-------------	---

漁業体験 (302)

評価	<p>当初事業計画で、助成事業として、瀬戸内海国立公園指定 80 周年に合わせて、海底ごみ回収の取り組みにスポットを当て、漁業者を応援するような漁業体験のイベントの開催を考えていたが、助成申請が不採択となり実施できなかった。</p> <p>また、高梁川河口干潟における生きもの実態把握調査に合わせて、干潟を中心とした沿岸域の生物多様性について学ぶ体験学習イベントについては、岡山県備中県民局「瀬戸内海 80 周年記念事業」として公 1 (104) で実施した。</p>
事業内容	<p>大成建設自然・歴史環境基金に漁業体験イベントで助成申請をしたが、不採択となった。</p>

支援連携 (317)

評価	<p>エコらぼ倉敷、倉敷・総社温暖化対策協議会などの市民団体と連携し、環境保全を目的とした市民活動のレベルアップを目指した取組みを進めた。環境月間における倉敷市との懇談会は、環境学習をテーマに開催し、市民・行政・企業が連携をしながら水島での学びについて考えるきっかけとすることができた。その他 STOP 温暖化くらしき実行委員会や高梁川流域学校運営委員会など</p>
-----------	---

	<p>にも参加し、様々な団体と連携して取り組みを進めることができた。</p> <p>地域の団体の支援では、水島おかみさん会から事務委託を受けて水島夢 Koi・Koi！実行委員会、水島お雛めぐり実行委員会などの開催支援をした。</p> <p>収益は、水島おかみさん会からの事業委託 7 万円が中心となっており、他の事業と連携させるなど事業費を賄えるよう努力したが、改善には至らなかった。</p>
<p>事業内容</p>	<p>・エコらぼ倉敷</p> <p>エコらぼ倉敷を事務局として運営し、倉敷市の環境施策や環境学習について議論を行った。6月に環境月間における懇談会、9月に環境基本計画を学び育てる懇談会、エコ遠足を実施した。</p> <p>「エコらぼ倉敷」</p> <p>5/19、6/9、7/14、9/1</p> <p>「6月の環境月間における懇談会」</p> <p>12回目となる今年度は外部講師を招き、「水島の持つ資源や要素を活かした新しい学びのしくみづくり」をテーマに、行政・市民・市民団体が対話しながら水島をフィールドに分野別の環境学習プログラムを考える形式で実施した。</p> <p>講師：西村仁志氏（広島修道大学）（6/24） 35名参加</p> <p>「環境基本計画を学び育てる懇談会」</p> <p>倉敷市第二次環境基本計画の進捗状況の把握、評価の協働実施をめざして実施した。今年度は、倉敷市第二次環境基本計画の概要と進捗に加え、降下ばいじん、ベンゼンの状況、生物多様性地域戦略策定後の状況について倉敷市の担当職員に解説を依頼した。</p> <p>環境政策講座「環境基本計画を学び、育てる懇談会」（10/27）</p> <p>22名参加（市民11名、行政11名）</p> <p>「エコ遠足」</p> <p>公共交通を活用して、市内の環境の状況を実際に見に行くエコ遠足の事務局を担った。</p> <p>「エコ遠足で行こう、通仙園」（9/29）</p> <p>高梁川流域学校</p> <p>高梁川流域の歴史、自然、文化などを学びの資源として活用し、地域の活性化につなげる取組の実行委員会に参加した。2015年6月に開校予定。</p> <p>実行委員会（4/22、5/27、7/11、7/28、9/2、2015/1/26,3/3、3/16）</p> <p>高梁川一斉クリーン活動でゴミ調査に講師として参加（11/30）</p> <p>高梁川流域学校ミーティング（12/14）</p> <p>講座：「水島コンビナートの進化」（2/21）共催として実施。</p> <p>瀬戸内の環境を守る連絡会</p> <p>瀬戸内地域の環境問題に取り組む市民団体の連絡組織として1972年に設立された連絡会の事務局を明石から水島に移すにあたり、事務局を担当することとなった。</p> <p>総会（4/29）</p> <p>STOP 温暖化くらしき実行委員会</p> <p>STOP 温暖化くらしきイベント（12/14）</p> <p>実行委員会（5/26、6/30、9/3、10/17、11/10）</p> <p>「おかやま環境教育ミーティング」：実行委員会に参加し、開催に協力した。</p>

<p>第2回 おかやま環境教育ミーティング (2/15/2/11) 実行委員会 (11/17、2015/1/22、3/20)</p>

まちづくり (322)

評価	<p>昨年度に引き続き、倉敷市新市・まちづくり推進課の委託事業として水島中心地域まちづくり研修事業業務を実施した。「子どもの自然体験を支え、まちへの愛着を育む人づくり・まちづくり」をテーマに、講演会、野外研修、ワークショップを開催した。</p> <p>講座の開催にあたっては、岡山大学地域総合研究センターとの連携を活かして取り組むことができた。また、野外研修の成果である写真を活かして、水島商店街、水島臨海鉄道と連携した展示企画を実施し、講座の成果をまちづくりにつなげる取り組みを実施することができた。</p>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり講演会 (9/25) 27名参加 講師：山田哲弘氏 (岡山県自然保護センター) 会場：倉敷市立第五福田幼稚園 ・ワークショップ 「幼稚園・保育園児のための遠足プログラムづくり」 (11/22) 28名参加 講師：前田芳男氏 (岡山大学地域総合研究センター) 会場：倉敷市環境学習センター ・野外研修 「ぼく・わたしがみつける“水島の秋”～はじめてのカメラマン体験～」 (11/29) 29名参加 講師：前田芳男氏 (岡山大学地域総合研究センター) 会場：水島中央公園 ・野外研修で参加者が撮影した写真の展示 水島商店街 (12/6～2015/1/31) 水島臨海鉄道 (12/12～12/24)

和解記念 (221)

評価	<p>今年度は、当初事業計画に沿って、毎年開催しているクリスマスコンサートを一般市民に開かれたものとし、まちづくりについて語り合う場として設定することができた。参加者層も従来より幅広い参加があり、まちづくりや「世界の環境学習のまち みずしま」を目指した取り組みについて交流を行うことができた。</p>
事業内容	<p>クリスマスコンサート in みずしま (12/23)</p> <p>演奏：ムジカくらしき弦楽四重奏</p> <p>会場：倉敷環境交流スクエア (水島愛あいサロン) コミュニティフロア</p>

環境省協働事業 (224)

評価	<p>本取り組みは、昨年度に引き続き環境省「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」として委託を受けて実施した。</p> <p>今年度事業では、3つの柱を中心に取組を進めた。</p> <p>①協働の基盤の整備：昨年度立ち上げた「環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会」による協働の取組を継続、発展させることができた。水</p>
-----------	---

	<p>島での学びを水島版 ESD プログラムとして検討し、その一部を世界会議のサイドイベントで展示することができた。水島での学びの資源をまとめ、協議会の目指すところを紹介したパンフレット、ホームページを作成することができた。</p> <p>②対話を進める：地域住民に本取り組みへの理解、賛同を広めるために、「水島いいところ百選」を募集した。この取り組みを通じて地域の小学校の協力が得られ、地域住民への理解も広がった。</p> <p>③若者の学ぶ水島地域の確立：岡山大学実践型社会連携授業やまちづくりの講座などに協議会のメンバーと一緒に取り組み、若者の学ぶ地域「水島」の確立を目指した。</p> <p>今年度事業を通じて、周りの人から賛同を得て取り組みを広げていく基盤を整備し、地域への理解を広げることができた。企業も含めた様々な主体との協働による地域づくりの取り組みは、他の公害地域でもできていないことであり、水島ならではの取り組みとして、さらに広げていきたい。企業協賛の講座の定着など地域が学びを支えるしくみを確立することで、持続的な取組を目指す。</p>
<p>事業内容</p>	<p>環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会 (6/10、8/28、11/17、3/3)</p> <p>水島版 ESD プログラムの検討 第 5 回協議会 (8/28) で学習・検討 ESD に関する世界会議での展示・発表 (10/9~11、11/7~8)</p> <p>大学生のための社会見学&エコツアー「暮らしと産業の関わりを学ぶ旅」(9/5) 15 名参加 「水島いいところ百選」 各種環境イベント、ホームページ等で「水島のいいね！」を募集した。 水島の未来を考える会 (12/8)、水島小学校 (12/15) に依頼。 地域報告会「みんなでつくろう！世界一の環境学習のまち みずしま」(1/25) 「世界一の環境学習のまち みずしま」ホームページ、パンフレットの作成 環境省協働事業連絡会 (7/29、12/12)</p>

たより (331)

<p>評価</p>	<p>みずしま財団の活動を広く一般に周知し、活動への理解を広げることを目的に、広報紙「みずしま財団たより」の発行 (年 4 回)、FM ぐらしき「みみみずしま財団エコらぼ Friday」(毎週金曜日)、ブログ、facebook 等による情報発信を行った。</p> <p>たよりの編集は、年 4 回の発行に削減した。たよりの編集、FM ラジオへの出演は、外部との連携を検討したが、課題として残った。</p>
<p>事業内容</p>	<p>みずしま財団たより 隔月で、年 4 号発行した。 FM ぐらしき「みみみずしま財団エコらぼ Friday」 みずしま財団の活動や環境に関する最新情報や地域情報などを発信した。 毎週金曜日 15:45~16:00 5/29 水島版 ESD プログラムづくりについて 10/20、12/23 イベント情報案内 RSK ラジオ：水島版 ESD プログラムづくりについて (5/28)、フードマイレージについて (3/9)</p>

	RSK テレビ：瀬戸内海海ごみに関する取材に協力（6/10） ソーシャルメディア等 サイト・ブログ、facebook、ツイッターの連動により、効果的な情報発信を目指した。
--	---

出版（240）

評価	従来の出版物やビデオ等の資料の販売を行った。 写真集や「501 人の命から」パンフレットは、視察研修受け入れの資料として活用することができた。その他の報告書等については、活用・販売は進まなかったが、「501 人の命から」報告書やビデオの販売があった。
事業内容	報告書やビデオの注文を受けて、発送を行った。

資料室（341）

評価	「過去の資料を活かして、未来をつくる」ことを目的に、倉敷市公害患者と家族の会及び、倉敷市公害訴訟の資料整理を行った。整理した資料の一部をあさがお会館で閲覧できるように整備するとともに、地域の子どもたちに公害の歴史を学んでもらう展示用パネルを作成し、倉敷市環境学習センターで展示を行うなど、地域に還元する取り組みができた。 また、全国公害資料館ネットワークにも参加し、12月に富山で開催されたフォーラムでは、全国の団体と交流をし、知見を広げることができた。
事業内容	基本的に週2回、事務所で資料の整理を行った。 整理した資料を基に、展示スペースをあさがお会館に設置した。 展示用のパネルを作成し、倉敷市環境学習センターで展示を行った。 「公害と子どもたちの暮らし」（7/18～8/10、10/14～10/30） 会場：倉敷市環境学習センター エコギャラリー 全国公害資料館ネットワーク 実行委員会（7/4、11/4、1/16、3/9） 公害資料館フォーラム in 富山（12/5～7） ヒアリング（10/23）

組織

みずしま財団機関会議

理事会（6/8 第10回、6/28 第11回、7/13 第12回、10/18 第13回、1/25 第14回、3/8 第15回）

理事長懇談会（4/30、9/24）

平成25（2013）年度監査（5/22）

評議員会（6/22 第7回（定時）、10/18 第8回（臨時）、3/14 第9回（臨時））

理事・評議員懇談会（3/14）

事務局会議（拡大事務局会議）

毎週木曜日の10:00～12:00で事務局会議を開催している。

平成26年7月から、月に1回非常勤研究員も参加する拡大事務局会議を開催している。